

だんだん便り

発行：一般社団法人だんだん会

責任者：宮崎和加子

第73号

2023年11月10日

我が家
の紅葉

ふじ桜の小木に巻きついた「つたうるし」が紅葉しました。
後方はだん香梅の紅葉です。
我が家
の庭も晩秋のあれこれをお楽しみます。

からまつ会 盆出 靖子（小淵沢町）



グループホームわいわい白州・摩利支天

秋といえば“食欲の秋”！！

尾白では青空の下、恒例の焼き芋を行いました。

「美味しいね」と皆さんペロリと食べておられました。

焼き芋大会



<スタッフ 守屋涼子>

わがままハウス山吹（支援付き共生すまい）

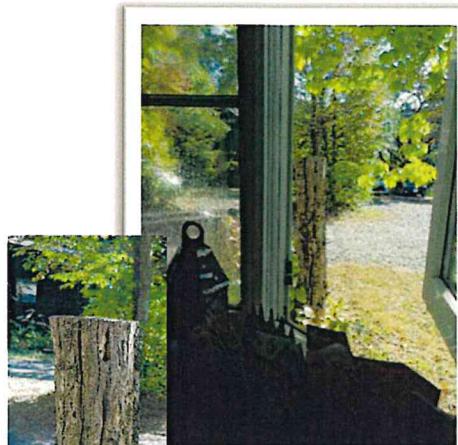
“我が家の 窓からの眺め”

コロナ禍による行動制限で、家で過ごす時間が多くなつた3年半余りでした。

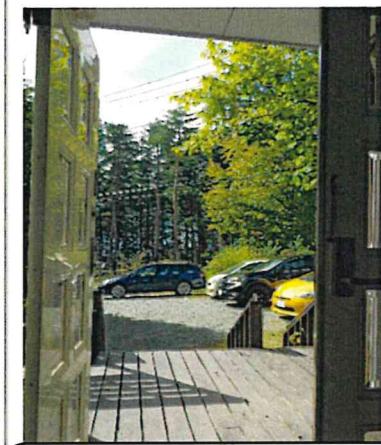
“山吹”的皆さんも外出の機会が随分減りました。

窓から外を眺めて、その先につながる景色に思いを馳せました。

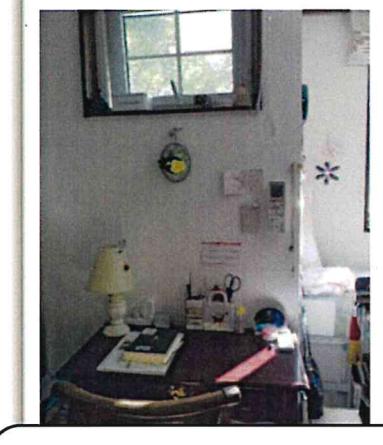
“窓”は社会とつながる空間、『我が家』の窓からはどんな景色が見えたのでしょうか。



アカゲラがお家をつくりました
が、いつの間にかお引越し
新居を見つけたのね



玄関からの眺め
今日はどちらへ
先へ先へと思いは飛びます



ちいさな窓、小さな机
そして...
私の長い物語は続きます



子ども達から届いた誕生日祝のシクラメン
空は、晴れていたり変わり易かったり
今年も花をつけました



樹々に囲まれたベランダ
日が昇り、日が沈む
当たり前に暮らす小さな喜び
お茶の一杯でもいかが？



窓から光さす『我が家』
私のベッドルーム
家族や友人との思い出の中で
心は自由に旅をします

終の棲家と決め、いろいろな所から来た方々が暮らしています。

居室で過ごしていても「誰かとつながっているわたし」、「どこかへつながっていくわたし」を感じ、決して孤独や孤立ではありません。「どこでも居場所にしてしまう」そんな暮らし方が素敵だなと感じます。

行動制限もやっと終止符。 また、外へ出かけて行きましょう！！

(介護スタッフ 石川由美子)

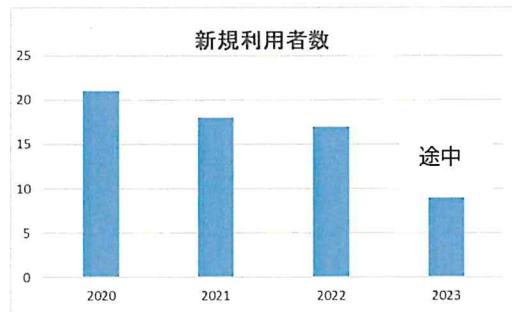
てくてく物語

てくてく24(定期巡回・随時対応介護看護事業)を開始したのは、2017年10月。丸6年が経過しました。今回は、2020年4月から2023年9月までの3年半の利用者状況をまとめました。

利用者総数

利用者総数 86名

2020.4現在	21
2020年度(新規)	21
2021年度(新規)	18
2022年度(新規)	17
2023年度(途中)	9
合計	86



1か月の利用者数の推移



1か月の利用者数は、26名前後。

<平均利用者数>

2020年度 25名

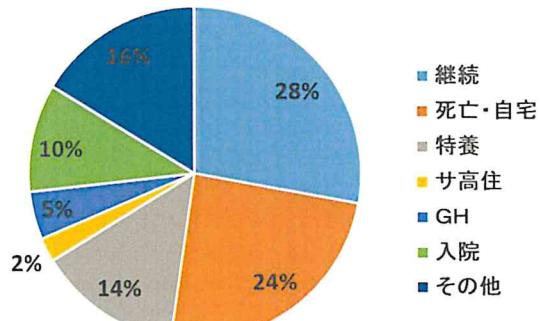
2021年度 27名

2022年度 26名

利用期間

■ 6か月以内
■ 7か月～1年
■ 1年～2年
■ 2年～

利用終了者のその後



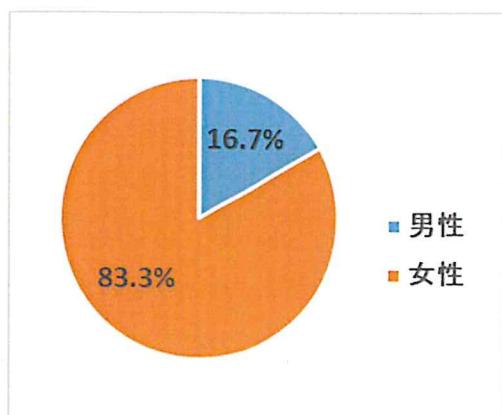
自宅死亡者

利用終了者の24%(21名)が自宅で亡くなっています。ガン末期の方は、あんあん(訪問看護)と連携して訪問しています。在宅での看取りこそ、てくてくの介護職と看護職がきめ細かい連携で支えることができます。主治医については市外、県外も多く、連携に難しい課題もあります。

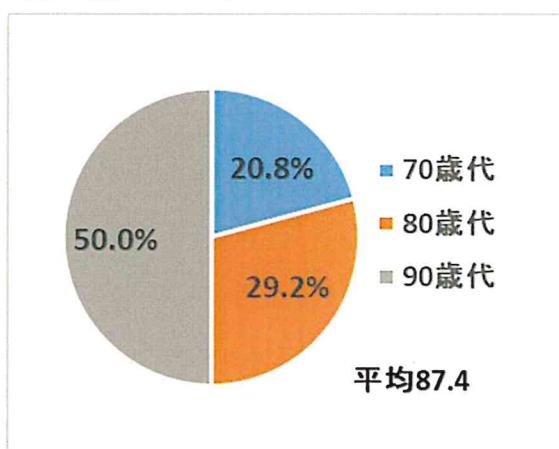
てくてく物語

2023年10月1日現在の利用者数は24名。その概況は以下の通りです。

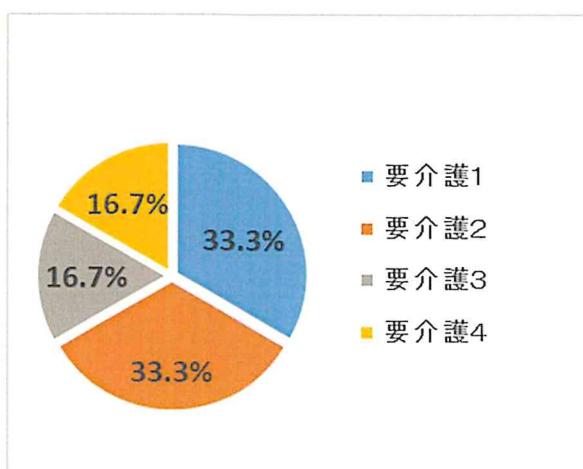
男女別割合



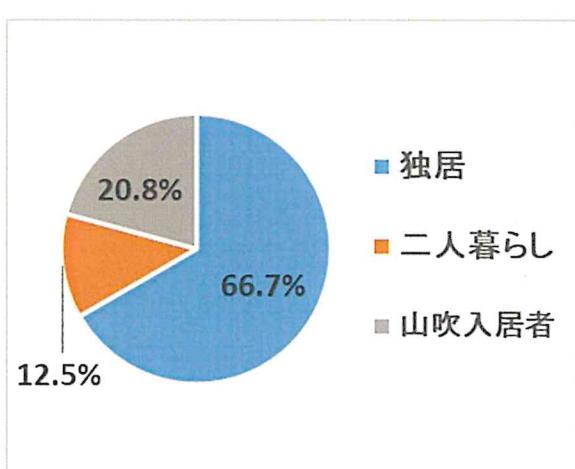
年齢別割合



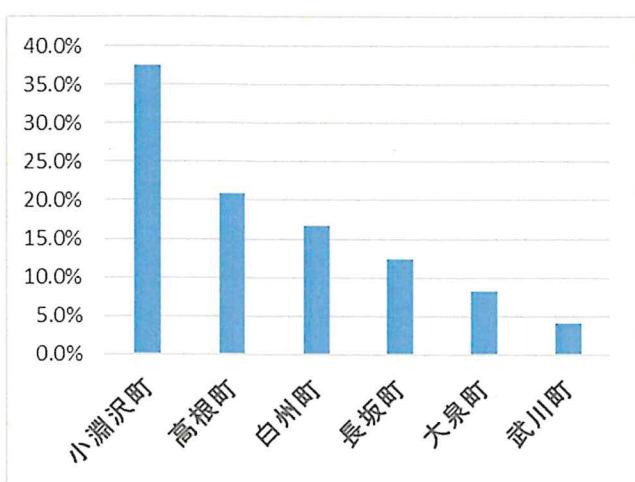
要介護度別割合



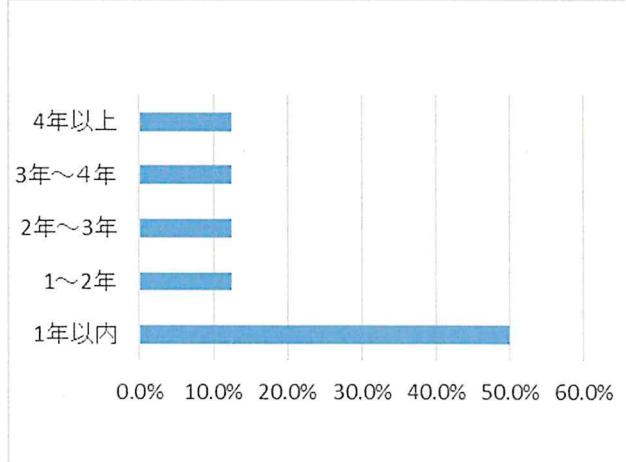
家族構成等の割合



町名別割合



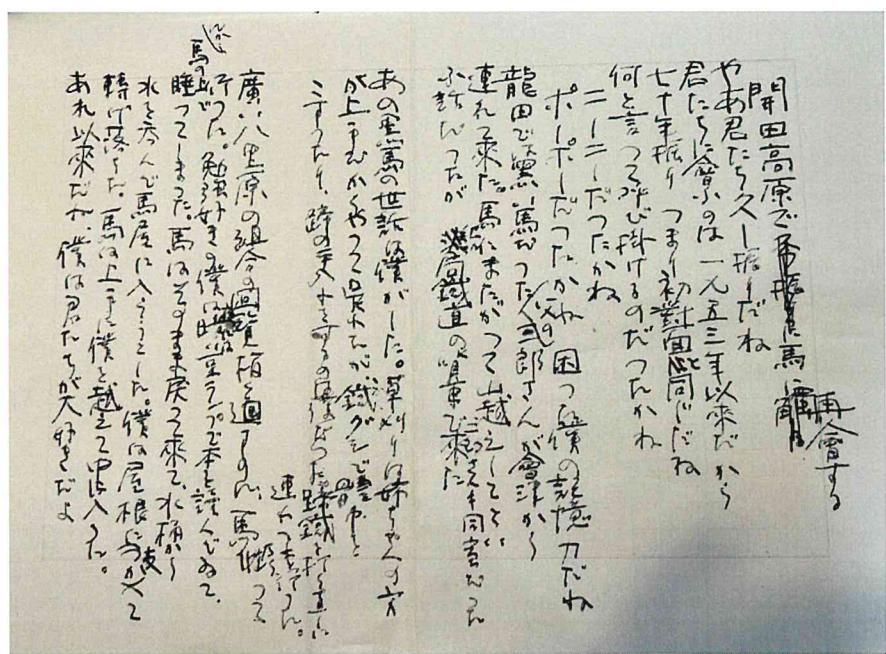
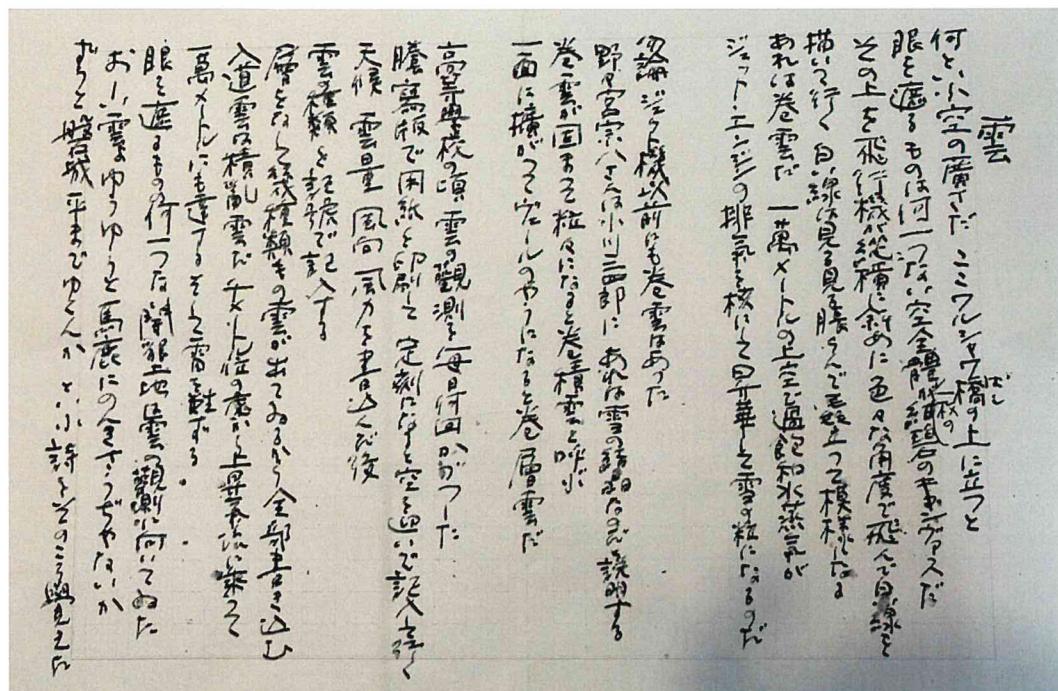
訪問期間別割合



「リハ特化半日でいるんるん」

朝晩の冷え込みが厳しくなりましたが、日中陽が差すとぽかぽかと暖かく、今年の紅葉はきれいかなと楽しみな気持ちでいっぱいです。場所によってはもうきれいに色付いている所もありますよね。空気が澄んでいるので、遠くの山々もきれいに見えます。そんな景色を見ていると、この地域に住んでいて良かったなと心から思います。

さて、今月は M 様の詩の特集(るんるんに原稿があります。他の作品もありますのでご興味のある方はおっしゃってくださいね。)です。『僕は詩人ですよ。僕の書く詩は長いのが特徴なんだ』とおっしゃっていた M 様。『詩の朗読をしたいんだけど』と、時折自作の詩を朗読してくださいました。今は、生活の拠点が変わり新しい所で暮らしていらっしゃいますが、フルートを練習したり詩を書いたり、M 様らしく過ごしていらっしゃるようです。



強い意志と支え

地域看護センターあんあん 所長 内田 優実

「負けないぞ」っていう気持ち

青山明弘さん(74歳、仮名)。奥様の和子さん(仮名)と二人暮らしです。

明弘さんは、2年前から肺癌の闘病生活を送っていましたが、今年の春に末期と診断され、出来るだけ自宅で過ごしたいと退院しました。

寡黙で多くを語らない明弘さんでしたが、初回の訪問看護の時には、力強い眼差しで、「自分で出来ることはやる。負けないぞって気持ちがある」とおっしゃった姿がとても印象的でした。

残された時間は少ない…

数日が経過したある日、血圧(最高血圧)が60台～80台に下がってきました。残された時間が短い…。医師から妻の順子さんに説明されました。遠方に住む息子さんに連絡したところ、10日後にしか来られないとのこと。さてそれまで命は…。

息子さんに会えた

明弘さんは、それからは徐々に眠る時間が増え、飲むことも食べる事も出来なくなりました。周囲のみんなは「息子さんに会うまで頑張って」と心の中で祈るような気持ちでした。

いよいよ明日息子さんが来るという前日、明弘さんは、急に起き上がり、久しぶりに水を50ccも飲んだのです！ そして無事に息子さんと会うことができたのです！！ その頃には話すこともままならなかつたのですが「来てくれてありがとう」と仰ったそうです。その場にはいなかったのが残念なのですが、明弘さんは、それはそれはいいお顔をしていたそうです。

意志が強い

明弘さんは意志が強い方でした。ご家族がおっしゃるには、「無口だけど一度決めたら曲げない、頑固なお父さん」とのこと。最期まで明弘さんらしい生きざまを見せていただきました。

支え

その『頑固なお父さん』を支えたのが和子さん。いつもご主人の横に控えめにいらっしゃいますが、笑うとにっこり、笑顔のすてきな奥様です。

頑張り屋の明弘さんを見守り寄り添うことは、和子さんにとっては気持ちが苦しくなることがたくさんありました。私たちは毎日朝と夕方に訪問し明弘さんに必要な医療処置やケアをしながら、和子さんの力になりたいと努めました。

明弘さんにとって、「痛い」と言えて弱い姿を見せられる和子さんの存在があったからこそ、最期まで「頑固なお父さん」を続けることが出来たのだと思います。和子さんは最後の呼吸までしっかりと寄り添ってくださいました。

*

私たちが訪問するお宅は、1人暮らしの方、あるいはご夫婦でもあまり仲がよくない方、さらに家庭内別居をなさっている方々と多様です。それぞれの方・夫婦のありようがあると思います。久々に“夫婦っていいなあ”と思えたご夫婦でした。

癌が発覚して1年8ヶ月、退院してご自宅で44日間。明弘さんの強い意志と和子さんの支えがあつたからこそ、明弘さんはご自分らしく生きることが出来たのだと思います。

一緒に働いてくれる看護師を募集中です！

一緒に「自分らしく生きる」応援団をしましょう！



各事業所の会議・委員会報告



リハ特化半日デイルンルン 第1回運営推進会議報告

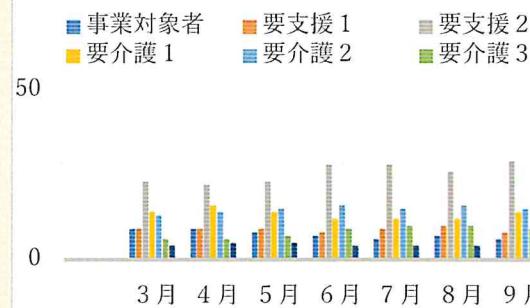
地域との連携と事業所運営の透明性を確保するため、おおむね 6 カ月に 1 回「運営推進会議」を設置することが義務づけられ、10 月 14 日に今年度第 1 回目の会議を開催致しました。

事業の利用者とそのご家族のご参加をいただき、地域の区長様・民生委員の方等のご参加もあり、地域で実施している事業所及び内容を地域の方に知ってもらうことが大事ではないか、職員が地域に出かけていくことや、地域の方が見学体験してみてはどうかという意見が出され、いずれも計画していくことでまとまりました。

また、災害時どのように対応を考えているのかというご質問をいただき、事業所がそのまま避難所になることを想定していると考えています。現在作成中の BCP(業務継続計画)に盛り込んでいくことになりました。

介護職の人材確保は困難を極めており、シニア世代の活躍の場でもあることをアピールしていきましょうということになりました。
(令和5年3月以降の利用者状況です)

介護度別利用者推移



定期巡回てくてく24 介護医療連携推進委員会報告

コロナのために開催できなかった「介護医療連携推進委員会」を10月 20 日に実施しました。体調不良等で欠席の方もいましたが、ケアマネジャー・薬剤師・訪問看護師・サービス提供者など8人の参加でした。

<報告内容>

- ① 2020年4月以降の利用者の全体像(86名)
- ② 2023.10 現在の利用者の詳細な概要
- ③ 現在の課題 など

<意見交換>

- ・職員数の確保が可能か。
- ・定期巡回サービスを利用してきたケアマネとして、定期巡回に適する利用者はどういう方なのかを考えながら利用している。定期巡回は、訪問介護とは違い面で生活を支えるサービス。
- ・職員としては、定期巡回は柔軟なサービスでやりがいあり。

一番議論になったことは、このサービスの周知度が低いということ。「訪問介護」との違いや、そもそもこのサービスの主旨・適応などをケアマネジャーや他の訪問介護事業所などにも理解してもらう必要があるのではないかということでした。地域密着サービスなので、行政にも協力をお願いした方がいいのではないかなどという意見がでました。

